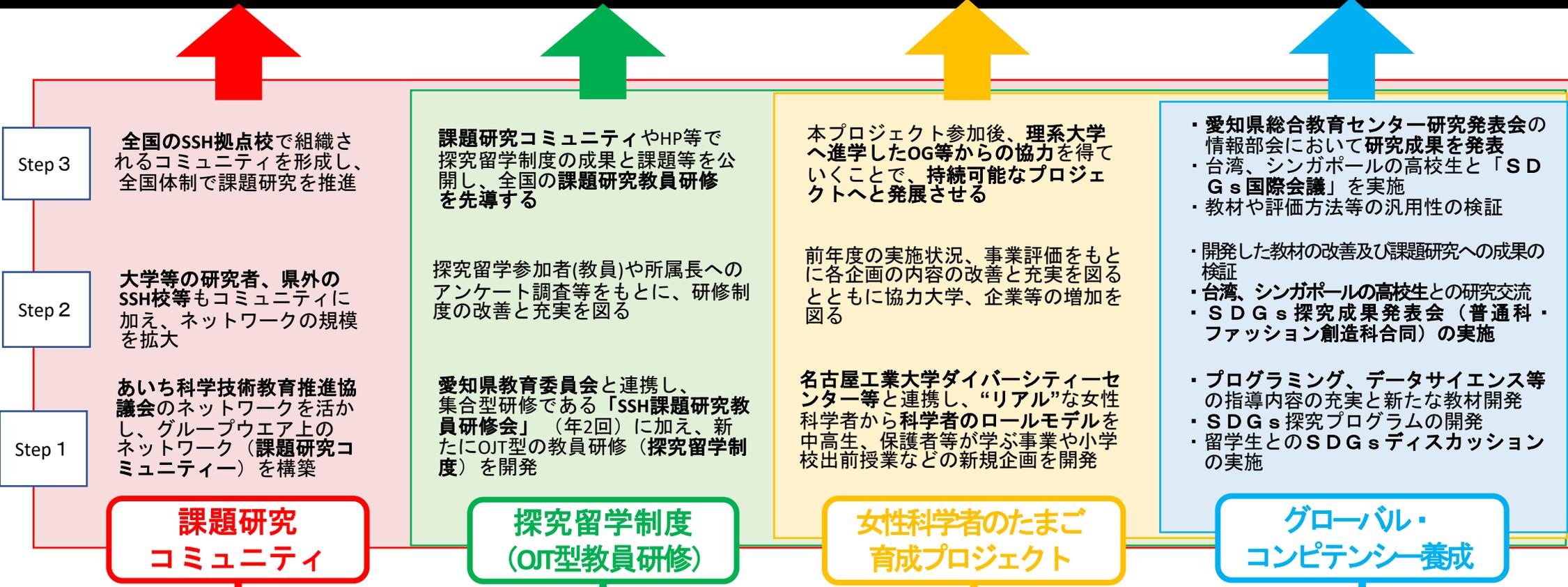


# チェンジメーカーの育成～探究し続ける生徒と教員の育成を目指した持続可能な教育システムの開発～



**先導的な人材 育成課題**

<p>課題研究の指導教材や評価方法等の研究や開発が自前主義にとどまっている。</p> <p>⇒SSH各校がそれぞれの強みや成果を共有したり、協働したりすることで、新たな価値を創出するための取組が必要</p>	<p>「SSH課題研究教員研修会」の参加者より「生徒の『探究の過程』や教員の『支援（コーチング）』方法も知りたい」という意見が寄せられている。</p> <p>⇒課題研究などの探究活動の普及のためには、教員が指導の過程を学べる新たな教員研修プログラムが必要</p>	<p>日本の女性科学者の比率が諸外国に比べて著しく低い。高校1年の2学期に文理選択を決定している学校が多い。</p> <p>⇒高校生のみならず小中学生とその保護者を対象とした、ジェンダーバイアスを乗り越える地域プロジェクトが必要</p>	<p>Society5.0時代を切り拓くチェンジメーカーの育成に向けた取組の充実が求められる。</p> <p>⇒<b>データサイエンスの素養やSDGsの視点を持って地球規模の課題に取り組めるグローバル人材の育成</b></p> <p>・文理や学科を越えた汎用性のある課題研究指導法等の検証と普及</p>
---	---	--	---

## 第IV期までの成果

- 「3年間の課題研究の指導法、評価法の確立」
- 「課題研究を支えるカリキュラムのマネジメント」
- 「大学等の研究機関と連携した科学技術教育プログラム」
- 「課題研究の普及、課題研究の支援者（教員）の養成」
- 「グローバル人材としての国際性、英語コミュニケーション力を伸ばすプログラム」
- 「学校全体でグローバルリーダーを育成する体制」

- ・自作のルーブリック評価シートを用いた省察（2、3年課題研究）
- ・「SSH国語」⇒科学論文の作成（1年課題研究）
- ・「SSH英語発展」⇒英語アブストラクト作成（3年課題研究）
- ・「SSH数学β」+「SSH化学特論」⇒実験データの統計処理（2年課題研究）
- ・課題研究教員研修会、課題研究交流会を通して、県内外の高校生及び教員に課題研究を普及
- ・学校HPで開発教材や成果の公開を行い、事業の成果や汎用性の検証
- ・全教科が課内・課外で各研究機関と連携し、ワークショップを開発、実施
- ・日本化学会及び大学等と連携し、各科学オリンピックに参加する校内外の生徒及び教員に講座を企画、実施